

NEWS

6月14日（日）2026年度一般社団法人日本看護系学会協議会（JANA）社員総会がオンラインで開催されました。総会では各議案の審議に加え、JANAの今後の方向性に関わる重要な議論が交わされました。総会の議事録はJANAのWebサイトへ掲載いたします。ここでは、総会でいただいた質問とそれに対する回答をお伝えします。

会長挨拶（池田真理会長）

池田真理会長は、感染症、国際紛争、気候変動、人口構造の変化、生成AIの進展など、先行きが不透明な時代において、看護の役割がますます重要になっていることを強調しました。

JANAには、看護系学会の知見を横断的に集約し、社会へ発信していくプラットフォームとしての役割が期待されています。単なる学術的な議論にとどまらず、社会や市民に対して看護の価値をどのように伝えるかが、今後の重要な課題として共有されました。

総会で寄せられた3つの質問

総会では、今後のJANAの活動に関わる重要な質問が3点寄せられました。

総会当日に十分な回答を行うことができなかったため、現時点でのJANAとしての考えを以下に整理して共有いたします。

1. Choosing Wiselyを軸にする方針について

Choosing Wiselyは看護の目的そのものではなく、ガイドラインの整理や市民との対話を通じて意思決定を支えるプロセスとして位置づけられます。この考え方は、予防・治療・ケアを横断しながら人々の健康を支える看護実践と親和性があると考えられます。

今後は、予防医療における看護の関わりという視点も含め、より広い枠組みでの検討・推進を目指していく必要性が示されました。

2. Choosing Wiselyにおける看護としての独自性について

医師・薬剤師主導で始まった取り組みに対して、看護として多職種とどのように協働し、どのようなアプローチを取るかを検討する段階にあります。「看護版 Choosing Wisely」という方向性に向けて、複雑化する医療・ケアの中で揺れ動く患者・家族に寄り添い、コミュニケーションと意思決定支援を行うという看護の本質を多職種・市民と共有し、大きな動きにつなげていくことが重要であると考えられます。

看護学協議体として各学会の取り組みを共有し、市民からも看護職からも「頼り、頼られる専門職」としての存在感を高めていきたいという意向が示されました。

3. 事例研究ガイドラインの位置づけについて

事例研究ガイドラインは症例報告と同一のものではなく、また倫理審査の簡略化を目的とするものでもありません。

事例研究の学術的・倫理的な位置づけを明確化し、必要とされる配慮や手続きを体系的に整理するため、有識者による検討を通じてガイドライン整備を進めていく方針です。

今後に向けて

今回の総会を通じて改めて確認されたのは、JANA が単なる学会間連携組織ではなく、看護の価値を社会へ発信するプラットフォームであるという点です。

JANA は看護系学会をつなぐ基盤として、学術的価値の向上のみならず、社会への発信力強化を重要な使命としています。

2026年度は、ホームページのリニューアル（11月中旬～下旬予定）を予定しております。

今後も JANA の様々な活動をわかりやすく発信し、みなさまへお届けさせていただきます。